

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成20年11月19日
第740号

〒952-1209 佐渡市千種155
：0259(63)4156(直) 4115(代) FAX：4117
<http://www.sado.co.jp/kanaisyo/> E-mail：kanai es@sado.ed.jp



大きな行事もほぼ終わり、子どもたちもほっと一息というころですね。今度はの秋として、自分のしたいことにじっくり取り組んでほしいものです。さて、みなさんは、芸術、運動、読書、食欲等、何らかの秋を楽しんでいますか。

難聴と言語発達

佐渡総合病院耳鼻咽喉科
佐藤 裕子

聴こえの悪いことを難聴と表現しますが、実はいろいろな種類があります。生後から難聴がある先天性のものやウィルスや細菌感染によるもの、中耳炎によるもの、原因不明のもの、老人性のもなどがあります。

自分で難聴の有無を訴えることのできない時期の子どもは、言語発達にとって大切な時期（音の刺激をしっかりと受けさせてあげなければいけない時期）でもあることが多いため、周囲の注意が必要になります。

現在、乳幼児期や学齢期には適時検診を行っています。より早期に難聴を見つけることがその後の言語発達にはよいとされています。特に、両側の高度難聴の場合は、その後の言語発達を促すために生後3か月頃より、補聴器を使用してもらうこともあります。

しかし、軽度から中等度難聴の場合は、ほとんど問題がないため見逃されることも多くあります。軽い発音の異常や学校生活でこそこそ声が聴こえないなど、ちょっとした場面で発見される場合があります。治療が必要かどうかは別として、お子さんについて一度注意して観察してみてください。



楽しみなこと



『発達教育』という機関誌があります。この冊子の10月号から、中川 信子氏（子どもの発達支援を考えるS Tの会代表、言語聴覚士）の「親の気持ちー理解し支えるために」という連載が始まりました。中川氏は、1組の親子に会うたびに心の中で「失敗と成功込みで学ばせてください。一緒に成長していければと願います。」と唱えるそうです。そしてさらに「支援者というものは保護者とは決定的な立場の違いがあり、どうしても“上から目線”になりがちなもの。ちっぽけで非力な自分を常に自覚しようとしていれば、少しは保護者に近付けるのではないか。」と、支援者として忘れてはならない心構えを述べられています。

昨年夏、東京で中川氏の講演を聞く機会に恵まれました。医学的な見地からの言葉の発達理論を、初めて研修を受ける私でも理解できるほど、分かりやすくお話していただきました。そして何よりも、穏やかでニコやかな、少しも偉ぶった様子を感じさせない中川氏の話し振りに感銘を受けました。「機会があれば、是非またお聞きしたい！」とっていました。

その中川 信子氏が、来年度佐渡ことば・こころの教室40周年の記念講演の講師として来島される予定です。今からわくわくしています！（山口）

親の会コ-ナ-



会員の声 No.31

「ペアレントトレーニングに参加して」 田中美紀

今年初めてペアレントトレーニングに参加させてもらいました。初めのうちは、自分の子育てを採点されているようで緊張しましたが、回を重ねる毎に我が子への接し方を客観的に振り返ることができるようになりました。そして、同じ立場の親同士で話し合えたことは何物にも代え難いものでした。

我が子を育てていく中で、特別な支援が必要な子どもをもつ親は、自分のしつけが悪いせいだと思い、子どもと同様に自信を失っています。周囲の人が良かれと思って言うことも、私への非難にしか聞こえませんでした。そんな時に、療育相談、ことば・こころの教室、佐渡市ペアレントトレーニング事業など相談の選択肢があることを教えていただいた時は、本当に嬉しかったです。親としてまだまだ発展途上の私ですが、これから先、どんな困難が待ち受けていようと、分かり合える仲間がいると思うだけで勇気が湧いてきます。



お知らせ



「教室まつり」の御案内

佐渡ことば・こころの教室では、コミュニケーション学習の一つとして、「教室まつり」を計画しました。多数の方の参加をお待ちしています。

日時 平成20年12月18日(木)
15:30~17:00

会場 金井小学校(佐渡病院隣)

内容 3~4人のグループになって各種イベントに参加する。
(スタンプラリー制で回る)

主なイベント カラオケに挑戦、爆弾しりとり、王様ジャンケン、ジャンボジェンガー、ふわふわちくちくストラックアウト など



子育てワンポイントアドバイス 6

~試してみようお母さんのことばがけチェック~

<口調と表情>

- (a) 静かな口調で、明るい話し方である。
- (b) きつい表情で、威圧的な話し方である。
- (a) 穏やかな表情である。
- (b) きつい表情でいらしている。



<子どもへの姿勢>

- (a) 子どもが何かをできなかった時、どこができないか考える。
 - (b) 子どもが何かをできなかった時、ガッカリする。
 - (a) 何かをさせる時、達成できそうなゴールを立てている。
 - (b) 何かをさせる時、すべてできることをゴールにする。
- (a)のほうが、より子どもの立場に立つ見方です。